

大学図書館における学生協働に見る図書館職員の専門性

渡邊, 由紀子

九州大学附属図書館利用支援課 : 課長 | 九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻 : 准教授

兵藤, 健志

九州大学附属図書館eリソースサービス室eリソースサポート係 : 係長

<https://hdl.handle.net/2324/1808073>

出版情報 : 日本図書館情報学会研究大会発表論文集. 62, pp.85-88, 2014. 日本図書館情報学会
バージョン :
権利関係 :



大学図書館における学生協働に見る図書館職員の専門性

渡邊 由紀子[†] 兵藤 健志

九州大学附属図書館

[†] watanabe.yukiko.935@m.kyushu-u.ac.jp

抄録

大学図書館の学生協働において図書館職員に求められる役割と専門性を明らかにすることを目的に、九州大学附属図書館の学生協働の実践例を対象として、その活動内容を業務日誌等の記録をもとに分析し、学生スタッフと図書館職員それぞれが果たしている役割を特定した。図書館職員には経営管理能力、コミュニケーション能力等の汎用的な能力に加えて、図書館固有の専門的な知識、教育工学等に関する知識、所属大学の教育に関する知識が必要であることがわかった。

1. 背景と目的

日本では近年、高等教育の質的転換が求められる中で、大学図書館が授業外学習支援の場として注目されている。例えば、科学技術・学術審議会学術情報委員会の「審議まとめ」では、学修支援環境整備のためには、図書館において、コンテンツ、学習空間、人的支援の3要素を有機的に連携させることが重要であると指摘している¹⁾。このような提言等を背景として、大学図書館は、学術コンテンツの拡充やラーニング・コモンズの整備とともに、人的支援の充実を進めようとしている。

人的支援充実のための一方策が、学生協働である。学生協働とは、「図書館業務の一端を、職員とともに、利用者でもある学生が担う活動」であり、2010年前後から国内各地の大学図書館で活発化している²⁾。呑海・溝上は、ラーニング・コモンズにおいて総合的な学習支援サービスを提供するためには、「自発的・自立的に学習支援に関与し、図書館スタッフの一員としての働きをする学生スタッフ」である学生アシスタントの活用が重要であると指摘している³⁾。また、呑海は、北米の大学図書館における学生アシスタントの役割を、その歴史的変遷から、「図書館業務を量的に補佐」「図書館業務・サービスを質的に補佐」「図書館サービスを拡張」の3つに類型化し、現在その役割は重層的になっていると述べている⁴⁾。

大学図書館が学生協働による人的支援体制を効果的に構築するためには、その構成員の役割

を明確にする必要がある。しかし、学生スタッフについては、先行研究によりその役割や意義が主にラーニング・コモンズとの関連から整理されているものの、図書館職員側の役割についての言及は少なく、学生協働の実践に必要な能力も明らかにされていない。

本研究の目的は、人的支援としての学生協働において図書館職員に求められる役割と専門性を明らかにすることである。なお、ここで言う「専門性」とは、図書館職員が身に付けるべき能力（知識・技能・態度）のことを指す。

2. 研究方法

学生協働の実践例から、学生スタッフが果たしている役割を特定し、図書館職員側に求められる役割を分析することで、学生協働における図書館職員の専門性について考察を行う。

2.1. 九州大学附属図書館における実践の概要

学生協働の一事例として、九州大学附属図書館における実践例を分析の対象とする。

同館では、九州大学の「教育の質向上支援プログラム（EEP）」の取り組みの一環として、図書館における学生の自主的な学びを促進するために、2012年3月から大学院生を「図書館学習サポーター（Cuter）」として雇用し、学生協働による学習支援を展開している。Cuterは、相談デスクでの案内・指導、図書館講習会等の補助、Web上の学習ガイド（LibGuides）の作成、学生交流イベントの企画・実施などを担当

している。2014年9月末現在、3キャンパスで合計19名（うち3名は留学生）の大学院生がCuterとして活動している。

学生協働の活動内容は、CuterがWeb上の業務日誌（Cuter活動日誌）に記録するとともに、図書館職員がほぼ毎月学内向けの活動報告書にまとめている。また、学外の交流会等で発表するためのポスターやLibGuidesを活動の成果物として公表している。

2.2. 学生協働の活動実態把握

九州大学附属図書館における学生協働の実態を把握するために、以下の手順で活動内容を整理し、分析した。

1) 相談デスクの相談内容リスト作成

Cuterは、認証付き「はてなブログ」上の活動日誌に、相談デスクでの質問応答を全て詳細に記入し、それ以外は業務名（例：イベント企画、Webガイド作成）のみ記載するよう義務付けられている。そこで、まず「Cuter活動日誌」の2013年4月1日から2014年9月30日までの記事データをテキストファイルで入手し、1相談を1件のレコードとしてリスト化した。リスト化の作業は、各館の学生協働担当の図書館職員6名が分担した。入力項目は、「日付、開始・終了時刻、場所、担当者名、留学生対応の有無、活動領域、詳細」である。最後に、著者の一人がリストを統合し、活動領域や表記の揺れを修正した。活動内容の分類に用いた「活動領域」及び「方法」は、学習支援に関する先行研究等^{3,5,6,7)}を参考にして設定した。

相談内容リストのレコード件数は合計1,029件となった。当該期間中に日誌を記入したCuterの人数は延べ32名であり、専攻分野は人文社会科学・理学・農学・工学・数学・医学・芸術工学・学際領域であった。

2) 相談デスク以外の活動内容表作成

相談デスク以外の活動内容を、活動報告書や発表用ポスター、LibGuidesから調査し、「年度、活動内容、方法、活動領域」に分けて表にした。その結果、20種類の活動が確認できた。

3) 学生協働の活動総括表作成

上記1)と2)で作成したリストを統合し、学生協働の活動総括表を作成した。

3. 学生スタッフと図書館職員の役割

2.2.3)で作成した活動総括表をもとに、「活動領域」及び「方法」毎に、学生スタッフと図書館職員それぞれの役割を特定した結果を、表1に示す。表1の左側は、本研究で用いた「活動領域」（Ⅰ～Ⅴ；Ⅰのみ下位分類1～5）と「方法」（a～g）によって区分している。

また、表1に収録した諸活動の前提となる統括的業務について、中央図書館の学生協働担当図書館職員から聞き取った内容を整理し、4種類の業務区分を付してまとめた結果を、表2に示す。

3.1. 学生スタッフの役割

表1の活動領域と学生スタッフの役割を照らし合わせた結果、「Ⅲ.学習法・解法指導」「Ⅳ.学生生活支援」「Ⅴ.その他」が、学生協働の導入により、図書館の学習支援に新たに加わった活動領域であることがわかった。

活動の方法から見ると、「f.交流会」は、学生スタッフが主体となって企画・運営全般から報告まで担当している。また、「b.Webガイド」や「c.展示」では、大学院生の立場から専門的な知識や経験を発揮している。つまり、Cuterは「自発的・自立的に学習支援に関与し、図書館スタッフの一員としての働きをする学生スタッフ」として、様々な場面で「図書館業務・サービスを質的に補佐」し、「図書館サービスを拡張」する役割を果たしていると言える。

2.2.1)で作成した相談内容リストを活動領域別に集計した結果を図1に示す。

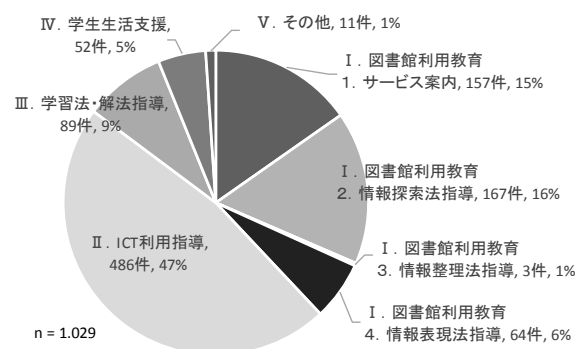


図1：相談デスクでの相談内容の内訳

図 1 より Cuter が相談デスクで対応した 1,029 件の質問応答の内訳を見ると、「Ⅱ.ICT 利用指導」が 47%で最も多い。これは、図書館が館内にパソコン等を設置して、学内の情報部門と連携した ICT 利用支援を行っている影響と考えられる。次は、「Ⅰ.図書館利用教育」の合計 38%であり、下位分類別では「2.情報探索法指導」と「1.サービス案内」がそれぞれ 15%前後と多く、続いて「4.情報表現法指導」6%、「3.情報整理法指導」1%の順になった。以上のⅡとⅠは、レファレンスカウンター等で図書館職員が通常対応している内容であるため、学生スタッフは、「図書館業務を量的に補佐」し「図書館業務・サービスを質的に補佐」する役割を果たしている。一方、「Ⅲ.学習法・解法指導」9%や「Ⅳ.学生生活支援」5%は学務部が従来行ってきたピアサポートであり、割合は少ないものの、学生スタッフが「図書館サービスを拡張する役割」を担っていることを示している。

なお、相談内容リスト中に留学生対応（使用言語は問わない）は 106 件あり、全体の約 10%となった。九州大学の 2014 年度の学生 1 割強が留学生であることから、妥当な割合と言える。

3.2. 図書館職員の役割と専門性

表 1 と表 2 の全体を見渡すと、図書館職員は学生協働という事業を統括しながら、学生スタッフが活動しやすい環境を整え、学生スタッフの力を図書館の学習支援に効果的に取り入れるための役割を果たしていることがわかる。

図書館職員に求められる能力を個別に見ていくと、表 2 に示した統括的業務はもとより、表 1 の全ての活動領域で、人員管理、評価といった「経営管理能力」や、連絡調整、広報、報告などの「コミュニケーション能力」が必要となっている。特に、学生協働においては、学生スタッフを訓練するための「人材育成力」は欠かせないものである。また、講習会等を企画し、全体調整を行ったうえで実施するためには、「企画力」「調整力」「実行力」が求められる。

方法別に確認すると、以上のような汎用的な能力に加えて、例えば、「a.相談デスク」や「b.Web ガイド」のマニュアル整備、助言、編集、査読には、図書館のサービス、システム、コレクション等に関する「図書館固有の専門的

な知識」が必須である。また、「e.講習会」の企画、設計、教材作成、講師のためには、「教育学や学習科学等に関する知識や技能」が必要となるだろう。そして、学生協働という事業運営のためには、「所属大学の教育に関する知識」が重要となる。

以上のような学生協働における図書館職員の役割と能力の明確化により、効果的な人的支援体制の構築、研修プログラムの作成や実施、職員の自己研鑽等の人材育成における検討材料を提供することができる。また、学生協働の実践において、図書館職員が専門性を発揮することにより、学生スタッフと図書館職員の有機的な連携が促進され、大学図書館の学修環境充実に資することが期待できる。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 26280120 の助成を受けたものです。

引用文献

1. 科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会 『学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）』 2013. http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/031/houko/ku/1338888.htm, (参照 2014-10-25).
2. 八木澤ちひろ 「大学図書館における学生協働についてー学生協働まっぷの事例からー」 『カレントアウェアネス』 No. 316, CA1795, 2013, p. 10-14.
3. 呑海沙織, 溝上智恵子 「大学図書館におけるラーニング・コモンズの学生アシスタントの意義」 『図書館界』 Vol. 63, No. 2, 2011, p. 176-184.
4. 呑海沙織 「北米の大学図書館における学生アシスタントの役割の歴史的変遷」 『情報学』 vol. 9, no. 1, 2012, p. 132-141.
5. 立石亜紀子 「日本の大学図書館における学習支援サービスの現状」 『三田図書館・情報学会研究大会発表論文集』 2013, p. 37-40.
6. 長澤多代 「大学図書館が実施する学習支援・教育支援サービス：北米の事例から見えるもの」 『東海地区大学図書館協議会誌』 vol. 58, 2013, p. 2-33.
7. 日本図書館協会図書館利用教育委員会 『図書館利用教育ハンドブックー大学図書館版ー』 日本図書館協会, 2003, 209p.

表 1 九州大学附属図書館の学生協働における学生スタッフと図書館職員の役割分担表

活動領域		方法	学生スタッフ	図書館職員
Ⅰ. 図書館利用教育	1. 印象付け	c. 展示	展示テーマの選定、展示図書の選定、推薦コメント執筆	テーマや展示物や期間の全体調整、機材や場所の確保
		d. 館内ツアー	日本語・英語による新入生向け館内ツアーの先導	企画、連絡調整、広報、シナリオ作成、先導、評価、報告
		e. 講習会	新入生が「ガイダンス」で自身の図書館活用体験スピーチ	企画、連絡調整、広報、設計、教材作成、講師、評価、報告
	2. サービス案内	a. 相談デスク	一般的な図書館サービスの利用に関する質問回答	人員管理、時間割調整、倫理指導、マニュアル整備、サービス詳細に関する助言
		b. Webガイド	図書館資料の紹介を含む学習ガイド執筆、他者作成ガイドの査読	編集、システム操作マニュアル整備、執筆ガイドライン整備、新ガイド提案、査読
		c. 展示	展示テーマの選定、図書の選定、推薦コメント執筆	テーマや展示物や期間の全体調整、機材や場所の確保
		d. 館内ツアー	日本語・英語による新入生向け館内ツアーの先導	企画、連絡調整、広報、シナリオ作成、先導、評価、報告
		e. 講習会	講義教材の事前チェック、講師改善点のフィードバック	企画、連絡調整、広報、設計、教材作成、講師、評価、報告
	3. 情報探索法指導	a. 相談デスク	蔵書検索等に関する質問回答	人員管理、時間割調整、倫理指導、基本的な情報検索に関する訓練と助言
		e. 講習会	文献検索法の実習で受講生の操作補助	企画、連絡調整、広報、設計、教材作成、講師、評価、報告
	4. 情報整理法指導	a. 相談デスク	文献管理ツール等の利用方法に関する質問回答	人員管理、時間割調整、倫理指導、基本的な文献管理ツールに関する訓練と助言
		b. Webガイド	情報整理法に関するガイド執筆、他者作成ガイドの査読	編集、システム操作マニュアル整備、執筆ガイドライン整備、新ガイド提案、査読
		e. 講習会	文献整理法の実習で受講生の操作補助	企画、連絡調整、広報、設計、教材作成、講師、評価、報告
	5. 情報表現法指導	a. 相談デスク	レポートの書き方など情報表現法に関する質問回答	人員管理、時間割調整、倫理指導、基本的な情報表現ツールに関する助言
		b. Webガイド	レポートの書き方など情報表現法のガイド執筆、他者作成ガイドの査読	編集、システム操作マニュアル整備、執筆ガイドライン整備、新ガイド提案、査読
		e. 講習会	プレゼン講座でモデルプレゼン披露、レポート書き方講座で教材作成および講師	企画、連絡調整、広報、設計、教材作成、教材の素材提供、講師、評価、報告
		f. 交流会	研究発表を軸とした学生交流イベントの企画・運営全般、発表、評価、報告	企画や運営への助言、機材や場所の確保、広報、評価、報告
Ⅱ. ICT 利用指導		a. 相談デスク	大学提供の情報システムの利用に関する質問回答	人員管理、時間割調整、倫理指導、マニュアル整備、トラブルに関する助言
Ⅲ. 学習法・解法指導		a. 相談デスク	言語の習得法や数学の問題の解き方などの質問回答	人員管理、時間割調整、倫理指導
		b. Webガイド	専門的な知識をもとに初学者向け学習ガイド執筆、他者作成ガイドの査読	編集、システム操作マニュアル整備、執筆ガイドライン整備、新ガイド提案、査読
		c. 展示	展示テーマの選定、図書の選定、推薦コメント執筆	テーマや展示物や期間の全体調整、機材や場所の確保
		f. 交流会	研究発表を軸とした学生交流イベントの企画・運営全般、発表、評価、報告	企画や運営への助言、機材や場所の確保、広報、評価、報告
Ⅳ. 学生生活支援		a. 相談デスク	進学・就職などの進路や学生生活全般に関する質問回答	人員管理、時間割調整、倫理指導
		b. Webガイド	就職活動体験記などの生活支援ガイド執筆、他者作成ガイドの査読	システム操作マニュアル整備、執筆ガイドライン整備、新ガイド提案、査読・編集
		c. 展示	展示テーマの選定、図書の選定、推薦コメント執筆	テーマや展示物や期間の全体調整、機材や場所の確保
		f. 交流会	就活生を対象とした交流イベントの企画・運営全般、報告	企画や運営への助言、機材や場所の確保、広報、報告
Ⅴ. その他		f. 交流会	学外開催の学習支援に関する交流会で発表資料作成および発表	人選、連絡調整、発表資料作成、発表、報告
			他大学図書館の学生による選書委員会と交流	連絡調整、報告
		g. その他	留学生を対象としたニーズ調査の企画、連絡調整、実施、報告 ミーティングで行動指針の検討、作成	留学生を対象としたニーズ調査の企画、連絡調整、実施、評価、報告、サービス反映への検討 ミーティングの日程調整、議事整理、行動指針の検討、作成、報告

表 2 九州大学附属図書館の学生協働における図書館職員の統括的業務

事業運営	学生協働に関する事業計画立案および経費要求、事業進捗管理、予算管理、事業評価および報告、学内他部署との連携、学内外へのアピール
学生スタッフの採用・配置	募集広報、学年や専門性など学生スタッフ全体のバランスを考慮した採用、適正判断(専門知識・能力、図書館活用能力、コミュニケーション能力、意欲等)により採用可否決定、募集連絡や採用書類提出などの事務手続き、各地区のニーズに合致した配置
学生スタッフの管理	連絡体制整備、シフト調整、就業管理、各個人の業務進捗管理および評価、意欲向上や円滑なコミュニケーションのための環境整備
学生スタッフの訓練	全体的な業務やサービスの説明、新任者への初期教育